

川房のみなさんお建者ですか

現在わかつているのは次の方々です

氏名	所在地	連絡先電話	備考
佐藤 未智明			
小森 伸太郎			
小森 忍			
早瀬 純史			
志賀 健一			
半谷 幸男			
半谷 コウイチ			
半谷 ユキエ			
半谷 亨秀			
志賀 昭博			
志賀 正一			
志賀 久子			
志賀 朋夫			
江井 真二			
横田 芳朝			
阪崎 忠雄			
志賀 健宗			
黒木 敏彦			
黒木 ちよ子			
阿原 孝			
都甲 由彦			
都甲 雅美子			
都甲 昌彦			
都甲 耀子			
島崎 ミチ子			

川房通信

発行所 中里 純英
〒230-0285 東京都大田区中里

元気で川房で 再会しよう

巨大地震。津波。原発事故
そして避難指示から一か月。
あの一瞬で川房の人々は右
りざりになってしまいました。
はじめは逃げることで
一杯いでした。が、
このごろようやく事態
を冷静に考えることが
できるようになりました。
今ごろは福祉館の桜
が咲き始めているはず。
例年ならボンボリに灯がとも
り薄やかな田園風景に風情を
添えているのにと切な
い気持ちになります。

みなさんどこでどうしてい
ますか。
これがこの通信を発行しよ
うと思つたきっかけです。

発行のおしごと

一日も早く安全
宣言がだ
され、川
房に帰り
たいの
ですが、
原発は
まだま
だ危険な
状況の
ようです。
希望とは裏腹に安全確認が
だされるのは、早くても数ヶ月
とも言われているし、もつと
長期間になるという人もいま

す。
ばらばらにされている間だ
けでもお互いの消息を知らせ
ることができればと思います。
私が承知している方々はど
く限られています。皆さんの
ご協力をいただいて、だんだ
んに川房の全員の消息を紙面
に載せたいと思います。裏面
はアンケートを掲載しました。
これに記入して03-8-848-7439
にFAXしてください。お近くの
郵便局でもできるはずです。
但しFAXの開始は四月十一日
の午後からです。

川房の人の情報をお寄せください FAX

あなたのお名前

一緒に居る川房の方のお名前

現在地住所

連絡先電話番号

今後の予定があれば書いてください。

あなたが知っている方の消息

※氏名・避難先住所・連絡先電話

※避難指示がなされたから、現在地に落ち着くまで、いうに言えないご苦労があったはずですよ。さしつかえなかつたらお書きください。(川房通信に掲載予定です)

高相馬市役所小高区の事務取扱部署の連絡先は次のとおりです。

電話 0244-24-5790

-5792

-5797

Fax 0244-24-5219

三 郎 燧 田

発行所 中野屋 燧田

大 阪 市 三 郎 燧 田
 住 所 〇 〇 〇 〇

平成23年4月13日

3/82

川 野 通 信

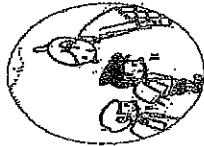
第2巻

氏名	所在地	連絡先電話	備考
江井武二			
井戸川秀昌			
大内節子			
大内安男			
天興 仁一			
川崎隆雄			
黒木聖一			
黒木高子			
黒木敏彦			
黒木俊幸			
黒木みち子			
黒木スノリ			
小林 忠			
小林伸八郎			
佐々木清明			
佐藤 徳			
佐藤一男			
佐藤定男			
佐藤秀一			
佐藤隆信			
佐藤照雄			
志賀昭夫			
志賀昭信			
志賀和子			
志賀浩一			
志賀正一			
志賀徳宗			
志賀久子			
鈴木昭夫			
高田年子			
寺島 智			
藤甲清子			
藤甲忠彦			
藤甲恵美子			
藤甲昌彦			
中里徳忠			
菅崎光雄			
坂 健一			
半谷孝男			
半谷コウイチ			
半谷スキエ			
半谷吉秀			
飯崎忠雄			
飯崎正武			
飯崎愛子			
星 元二			
門馬 亨			
門馬繁行			
門馬洋貴			
額田芳朝			
額田孝明			
額田洋秋			

私の逃避行

飯崎 中雄
 11日(金)小学校迎え時、就業センター本場で地震。すぐ引き返す。土蔵前川沿い。納屋クシ瓦一部崩落。自宅泊。
 12日(土)家の片付け、被災地見回り。若夫婦と孫たちは避難。避難先不明。自宅泊。
 13日(日)午後、区長巡回避難指示により車で避難。14日播磨行き予定のため分断。ソリンタン(急運にも)石神小、自動車泊。
 14日(月)一旦自宅に帰りとりあえずのものを持ち避難。飯詰、白石小泊。
 15日(火)飯詰白石小休。真語。
 16日(水)白石小学校から知人と新鴻市へ移動。幸いに高層建OK、料金は無料。夕方六時新鴻県庁前、県庁前指示により五泉市の老人保養センター(市内より約30分)に移動。10人一部員。入浴可、食事良好。馬下保養センター泊。
 17日(木)午後四時、五泉市から養母久子ばあさん引き取りのため原町総合病院(病院から先の僅差)午後10時原町署、市立病院でショートスリープ中だった久子ばあさんを引取る。播磨週は猛吹雪。18日午前二時五泉市着。五泉泊。
 18日(金)朝、五泉市馬下保養センターより明日の午後四時まで別の避難所(集會避難所)に移るよう誘導された。百歳の高齢者を伴っての集會避難所はヤバイと思ひ新鴻市内に避難していた愚者と連絡をとり、明日早朝新鴻県指定の湯沢町へ移ることとした。五泉市泊。
 19日(土)朝五時、飯詰から一緒に避難した知人と

別花迎えに来た皇子と合流。大内家も一緒に湯沢町へ移動。七時、湯沢署。町指定の川端廣成の小説「吾国」で有名な「高半」に入居。湯沢町に約千人中、「高半」は50人であった。
 20(5/4)一七日間湯沢町で過ごす。その間、スキーや元香尾關のチャンコ鍋等歓迎を受けた。22日には、大内孝男君と川琴に会った。午前二時半湯沢を出て、九時川琴着。電源を切り、戸締まり、掃除除害をして来た。午後一時川琴発、午後七時湯沢着。滞在約五時間。
 25日(火)湯沢から國境の長いトンネル(11キロ)を抜け群馬県高崎市へ移動。
 27日(木)一番上の孫が近所の小学校二学年に編入。

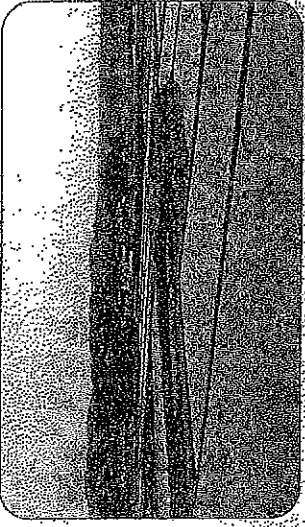


三月一六日夕方、石神から播磨市あづま総合体育館に避難しました。
 体育館では廊下に毛布を敷いて21日間過ごしました。初めのうちは小高区の情報が多量にたくなく、大変困りました。
 夜10時頃灯、ストーブは9時に消し、トイレ近くであまり眠れませんでした。
 今は花月ハイランドにいます。が、受け入れ期間は七月までです。それまで居ます。
 佐藤 秀一

夜の川房

さくらが咲いています
 こぶしが咲いています
 だれもいません
 くらやみに星空ばかり
 しんしんと放射能がふり
 そそいでいます
 東電社長「天災、規定外
 申し訳ない」 だつて
 (な)

前略 この度は「川房週信」をお送りいただき誠にありがとうございます。ごさいました。週信を讀ませていただき、沈みがちな心に光明がさしたような気がする。共に少し忘れかけた川琴の風景や部落の皆さんの顔が目につかなくて来ました。家内からは名簿をみて早速あちこちら電話をかけていました。
 原発の被害などあるはずがないと思つていましたが、現実にごうなつてみると、一生懸命危険性を訴え建設に反対していただ方々の何と際かたさとか、今更ながら感心させられます。
 今回の事故は天災では片付けられないと思ひます。東京電力、国の農畜確保に対するタイムンだと危険性は承知してはいたはず。グチはよしましょう。
 今回の「川房週信」は大変貴重なものだと思ひます。あまりご負担にならない範囲で続けていただければありがたいです。
 私たちもできる限りご協力したいと思います。お待ちしております。
 飯崎 中雄



「送る面を裏向き」に願います。
 4月11日にホテル天電閣から送られた方「発刊のこめいさつ」の面が届きました。

訂正
 真(身) 佐々木清明さんの避難先間違ひがありました。今号のものが正しいもので。電話はそのまま。

南相馬市役所小高区の事務取扱部署の連絡先は次のとおりです。

電話 0244-24-5790
 -5792
 -5797
 Fax 0244-24-5219

編集日誌
 第一号を手にとされた方々から「嬉しかったよ」「泣きながら讀みました」とか「〇〇さんと連絡がとれなかった」「△△さんが訪ねてきてくれたよ」という電話を去ようだいしました。みんなに喜ばれるとは編集子冥利に尽言するというもので。どろせ私も避難民、ヒマと時間はたっぷりあります。紙面に載せる記事。話題があれば幾号でも発行します。書くのが苦手なら電話でOK。遠慮なくご連絡ください。
 真電。保安院。政府のモメモメぶりを疑りながらどうやって「原発」を糾弾しようかと考えています。
 (な)

5/8) 平成28年4月20日

氏名	現在地	連絡先電話番号	備考
飯島寿美			
井川秀昌			
江井あつ子			
江井泰枝子			
大浦芳夫			
大間 仁一			
大間 仁志			
大元弘画			
川崎千豆五			
川崎利夫			
尊名水幸徳			
黒木勝信			
黒木トシ			
黒木正三			
黒木正典			
黒木古彦			
黒田久子			
佐々木孝子			
佐々木守			
佐藤一男			
志賀 孝			
志賀昭夫			
志賀和子			
志賀浩一			
志賀信一			
志賀信夫			
柳野耕一			
柳野耕造			
高野 登			
高野節子			
高橋菊生			
田中重夫			
都甲忠彦			
原田礼子			
半谷チヨ			
藤崎正武			
飯崎益夫			
星 ツヤ子			
星 八子			
星 義弘			
三浦博之			
門馬 孝			
門馬芳彦			
黒木幸三子			

三 歌 風 信

発行所 中里 龍堂
経理 光

元 氣 で 川 房 を
再 会 し よ う

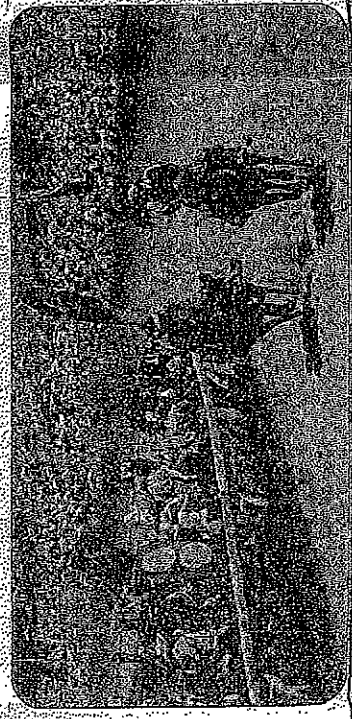
(7/8)

行政區長佐藤秀一さんから提供された市役所の文書です
心急仮設住宅等の建設計画について

南相馬市の心急仮設住宅については、津波で流出した住宅及び原子力発電所事故により避難指示がなされた区域の住宅をふくめ、5000戸を要請した。
 30キロ圏外である鹿島区に、建設候補地を特定した結果、1100戸が可能と判断したことからは早急な対応をお願いしている。
 残りの戸数については、建設場所等の要件が整い次第順次要請し、対応をお願いしている。
 その他市営住宅、雇用促進住宅の空き室により対応する考えである。

4月18日現在、鹿島区の7地区において464戸分を着工した。
 今回の仮設住宅等の募集については、下記の通りです。

心急仮設住宅	7団地	464戸
定住促進住宅	2棟	35戸
市営住宅		6戸



行政區長佐藤秀一さんから提供された市役所の文書とその要旨を記載しました
罹災証明書の発行について

1. 罹災証明書(消防長が発行する火災による罹災証明書を除く)は、災害対策基本法第2条第1項の規定する災害で、次の事項について証明する。

- (1) 住家 全壊(全壊)、流出、半壊(半壊)、床上浸水、床下浸水
- (2) 人 死亡、行方不明、負傷
- (3) 事業所関係 事業所については、住家のみを証明する通常の罹災証明書とは違った対応となることから個別に対応する。

2. 発行手続き
 罹災証明は、罹災台帳を備え、その台帳により確認し、被災者の申請により発行するものとする。なお、台帳によって確認できない場合は、申請者の立証資料により発行することができる。

3. 罹災台帳の作成
 (1) 住家の罹災 住家の罹災については、市において住家の被災状況の判定を行い、罹災台帳を作成するもので、現地調査を行うことを基本とし、その後被災状況の判定を行います。

(2) 人の罹災 人の罹災については、死亡については、埋葬許可等の手続きにより、行方不明については警察への届け出、負傷については本人の提出する医師の診断書をもって罹災の確認とし、罹災台帳を作成・記載する。

4. 罹災証明書発行スケジュール 罹災証明書発行に関しては、原発による避難指示があるなど各区によって状況が違っていることから、それぞれに調査を行い、建物の調査が完了した順に証明書の発行を行うことも検討したい。発行期日は5月初旬を目標としたい。

5. 罹災証明書受付と避難所対応
- (1) 受付会場 ユメハットホール(仮設住宅受付会場にも使用している)
 - (2) 受付日時 平成23年4月25日(月)以降から 土・日・祝日受付可能 受付時間9時から19時まで
 - (3) 職員配置 担当課のすぐやります課の職員その他、庁内職員16名の20名体制で受け付け
 - (4) 避難所対応 今回の罹災証明の対象となる被災者は自宅の被害が大きく、その多くが避難所に入っていると考えられるため、避難所の派遣職員と連携を充分にとりながら行う。

6. 市民への周知
 被災証明書の発行では、市民がその使用方法もわからず不安感から申請している状況となったため、罹災証明書の発行では申請者が津波の被害にあった人のみであること(地震被害については個別対応する予定)やどのようないし申請に使用できるのかを案内することも必要と考えます。
 市民への周知方法は、各行政区長への通知文と市のホームページ掲載を中心に行います。また、避難所へ新聞やテレビなどのメディア等を利用しての周知も重要であるが、証明の資格要件等で伝達させないよう配慮したい。各種の支援制度も分かりやすくまとめた資料も併せて作成し周知も図りたい。

(8/8)

福島県義援金説明会概要

【この項は行政区域長佐藤秀一さんから提供された市役所の文書そのままだと見受けられます】

開催日時 平成23年4月15日(金) 午後7時

開催場所及び担当部長 原町一中 市長公室長、 原町三中 市民生活部長、 原町三中 教委理事、 石神中 経済部長、 原町二小 総務企画部長

鹿島中 健康福祉部長、 上真野小 鹿島区所長

説明内容

①義援金配分の趣旨 県内外からの義援金を福島県配分委員会に寄託があった分を今回I世帯当たり5万円として配分するものです。

②基準日 平成23年3月11日(金)

③配分対象世帯 ア 東日本大震災またはそれに伴う津波により、住家が全壊または半壊した世帯

イ 東京電力福島第一原子力発電所から30kmの圏内にある世帯

鹿島区で、上記に該当しない世帯に対し市として避難を勧奨したときから、市として見舞金を5万円、今回限り交付する。

④配分額 ア、イの両方に該当しても5万円です。

⑤基準日現在の居住の確認 ア 住民票を市町村内に有している世帯は、住民基本台帳による名寄せを行い、申請書の内容と住民基本台帳のデータを照合します。イ 住民票の移動をしていない世帯は、公共料金の明細書や借家の賃貸借契約書等基準日に居住していたことが推定されることを確認する。

(確認のため、口座振り込みの時期が遅れます)

⑥地震またはそれに伴う津波に伴う津波により、住家が全壊または半壊した世帯の認定は、罹災証明書の作成基準に基づき認定します。

⑦義援金の配分は、口座振り込みとします。

四月十八日の参議院予算委員会でも、菅総理が一六、九か月後の時点でできるだけ多くの方(自宅に)戻るように努力するのが政府の役割だ」と述べたようです。私達避難民の心境は案外でもすがる所があるには、あまりに不確定な前提が多いように

思っています。六、九か月後に川房に戻れる、という希望を我懐きましょう。最先端の技術を駆使して、確実に早く原発の暴走を止めてほしいものです。それができないで「原発は安全だ」なんて言うてほしくない。(中里範忠)

花月ハイランドホテル 高田早子
川房通信ありがとうございます。皆様の居場所がぼろぼろに移っています。いつか又皆で川房で暮らすことを願っています。すが、どこかで帰れないかな?と。気晴らしに花見山に行ってみました。満開の桜のやさしい色に故郷を思い出します。四月十五日

友達との再会に泣き、テレビからの応援メッセージがなければ福島に泣き、歌を聴いては胸が熱くなり走しい涙をたくさん流しました。でも今原は「川房通信」です。メールで連絡はとりあっています。が、家族ばらばら町におります。(現在息子は仕事復帰で原町におります)

ママ、二台の車で相馬の妹夫婦のところに行き、こみこみました。十四日の朝には息子夫婦は二本松へ移動。(現在息子は仕事復帰で原町におります)

夜、家族全員の夢のまま、二台の車で相馬の妹夫婦のところに行き、こみこみました。十四日の朝には息子夫婦は二本松へ移動。(現在息子は仕事復帰で原町におります)

「川房通信」ありがとうございました。 黒木高子
地震の恐怖から冷静さを取り戻す間もなく、十二日防災無線での避難指示。



「川房通信」ありがとうございました。 黒木高子
地震の恐怖から冷静さを取り戻す間もなく、十二日防災無線での避難指示。

老人会からのお知らせ
三月初めに募集した熟年生活寮に保険は予定どおり四月一日から効力を有しています。証書はまだおくられてきていませんが、保険に該当すると思われる皆様をいたした場合は中里までご連絡ください。
老人会長 中里範忠

四月十二日受信
門島静江

避難生活は、まずだつた数々の村も今は人影のない淋しい放射線量の多い娘村になり風鈴帳をさがす暇もありません。五月五日に重宝を手に取りにきたところ、真実の花の所で横断は、非常にきびしくなりました。帰り、庫町保健所で測

で元気の出る涙が流れました。ありがとうございます。 最近は大いなお眠りとなり、気持ち少し落ち着き、自転車でも少し走り回っています。(妹夫婦にも良い知らせをもらい、母も元気にしております。)

今頃は福祉館の桜も満開でしょうね。 またあの場所で「川房通信」 左右の手ぎつちり 振りしめて 歌いましょう 唄いましょう

で元気の出る涙が流れました。ありがとうございます。 最近は大いなお眠りとなり、気持ち少し落ち着き、自転車でも少し走り回っています。(妹夫婦にも良い知らせをもらい、母も元気にしております。)

今頃は福祉館の桜も満開でしょうね。 またあの場所で「川房通信」 左右の手ぎつちり 振りしめて 歌いましょう 唄いましょう

(6/8)

頭出しの語が出ておきます。
 連絡先 0244-24-5249
 申請書などを教えてくれますのでご連絡してください。知らない方もお尋ねしていただきます。4月18日ぐぐらから要領がわかります。
 申請期間は4月20日～28日のようです。
 NTT 0120-533-578
 NHK 0670-077-077
 東北電力 0120-175-266
 以上休止の申し込みをしたほうが良いです。
 佐藤明子

南相馬市役所小高区の事務取扱部署の連絡先は次のとおりです。
 電話 0244-24-5790
 -5792
 -5797
 Fax 0244-24-5219
 【横田芳朝さんからの情報です】

編集日誌

●訂正に載せた写真は、台場の土手から北東方向をみたもので、津波被害を写したものではありません。佐藤真貴さんが写っています。
 ●甲斐川堤前の川原の風景です。数年前に写したものです。
 ●避難直後に集団避難所に入った方々は多く民間宿泊施設に移動しているようです。避難先が狭いので、お気をつけて。

危機一髪

中島麗恵

川房老人会では、地震発生直前の前日三月十日に、浪江町南塩にある町営の保養施設マリシパークみなぎに日帰り旅行をしました。全員で十七名が参加しました。午前中は、豊くし風の強い日でしたが、マリシパークをやり、最後は皆さんで、午後三時ごろは、映画鑑賞の最中でした。まさかそれが、一日後にはずれていたらと思うとぞっとします。

「母のしらせ」という書物がありますが、震災の際の全長体験で、私は前日六日から順路に続いてきた地帯（津波警報が注意報を出していた）送迎バスの運転手に頼りながら、たまたま気がなっていたので、老人会

の行事とはなんの関係もないのに地震の話から入って、地震で絡まってしまったような体験をしました。聞いていた皆さんは、会費はどうしてそんな話をされるのか、と思つたにちがありません。

分岐がましいことですが、私が生まれた昭和十三年の十一月五日は、北7.5の福島県東方地震があり七日までの三日間でM7.0以上の余震が三回あつたと記録されています。建物内には震らねないので、何日も震つたとよく親から聞かされていたものでした。その震源域は今回とほぼ同じです。そのうえ、この震源地で起こる地震の周期は約七十年といわれていたのです。そのことを話しました。

まさに図星。危機一髪というか、予言的中か、といいたまいます。まさか、ははは。

【佐藤芳一さんから提供された文章です】

30坪以上の屋内退避用に500戸の仮設住宅を鹿島区内に作るために入居者の募集を行います。
 期間 4月15日(金)～5月6日(金)
 時間 午前9時～午後7時まで、土・日・OK
 来所 南相馬市民文化会館(ゆめはっぴ)
 待合会場及び鹿島区役所2階建設課窓口
 電話 0244-23-7635、7637、7638、7642
 Fax 0244-23-7590、7591、7598、7595
 メール okukase@city.minamisoma.lg.jp
 郵送 〒975-8686 南相馬市原町区本町2丁目27番地 市役所建設住宅課
 (5月6日必着)
 建築住宅課(本庁舎2階)
 相談 Tel 0244-24-5253
 Fax 0244-24-6151

※入居者の発表は、審査会で審査を行って決定します。

ターネットでは、三月十八日(土)に上野から撮影した、戸やマリシパークの写真を見ることが出来ます。戸には、一枚も残っていません。田んぼには船や自動車などが横たわっています。マリシパークは、建設のため残っていますが、付属施設の木造の建物は流されてしま

横田芳朝
 十二日夜、避難先から、町の方へ向かおうとした。しかし、大津波。方向を正に向け、避難所へ向かう。ところが、避難所は、職工の人たちでいっぱい。おじの家に十二時過ぎ、そこへ一週間通い、その後五の組は降り、現在に、二十六年まで、こんな長く家を空けたのは初めて。

鈴木陽次
 いま、十四歳。体調を崩して、入院して自宅に戻った。たんの地震でした。二十歳までは戦争に巻き込まれ、八十を過ぎて今度は原発に巻き込まれている。成程にも三手戸を造るとき私もあつても働いたのです。

川房通信ほんとうにありかとうございまして。私は今、相崎田尻コミュニティセンターで避難者のお手伝いをしてがんばっております。南相馬市の方五十名、全員では百名です。東京大学に行き、楽しい一日を過ごしました。それから教員後、まさかの坂をいまま登っております。愛する息子が東京電力第一で勤務しており、毎日口には出せない複雑な思いで生活しております。現場では、朝カローリメイト、昼・夜カンパンと聞く夜も...。でも、不安でいる皆様の気持ちを考えますと私達はおにも言えないですね。

黒木貞子
 郵信四月十二日